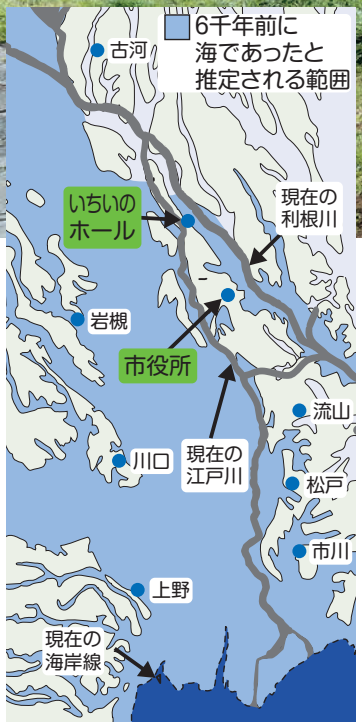
史跡公園となっている山崎貝塚

歴史のある風景

野田と貝塚

貝塚は、古代の人が貝などを捨てた場所です。貝殻や、動物、魚の骨などの食料の残りかすだけではなく、壊れた土器や石器などの道具類もあり、住居の跡なども発掘されます。古代の生活を復元、理解するための重要な遺跡です。

海に面した千葉県は世界でも有数の貝塚が分布する地域で、下総台地は海産物に加え動植物などの食糧も豊富で生活する上で恵まれた環境でした。そのため多くの集落ができ、多数の貝塚が残されたと考えられます。野田市では47か所の縄文時代の貝塚が見つかっています。



海面上昇で海沿いにあった現在の野田

氷河期が終わった約2万年前から、地球は徐々に温暖化して海面が上昇しました。その結果、海岸線は陸地の奥へと進んでいきました。

海面上昇のピークの縄文時代前期（約6千年前）には、現在の野田市は、奥東京湾、古鬼怒湾と呼ばれる入江の海沿いの土地となっていました。

この時代の貝塚からは、アサリやカキなどの海水産の貝が見つかっていて、干潟となった海岸沿いは貝類の豊富な漁場だったと考えられます。

海岸線の後退と大型貝塚の出現

縄文時代後期（約4千年前）には、気温が下がりはじめ海面は低下し、海岸線も後退していきます。

そのため、野田は海沿いから川沿いの地となります。この時代の貝塚からは、ヤマトシジミなどの淡水と